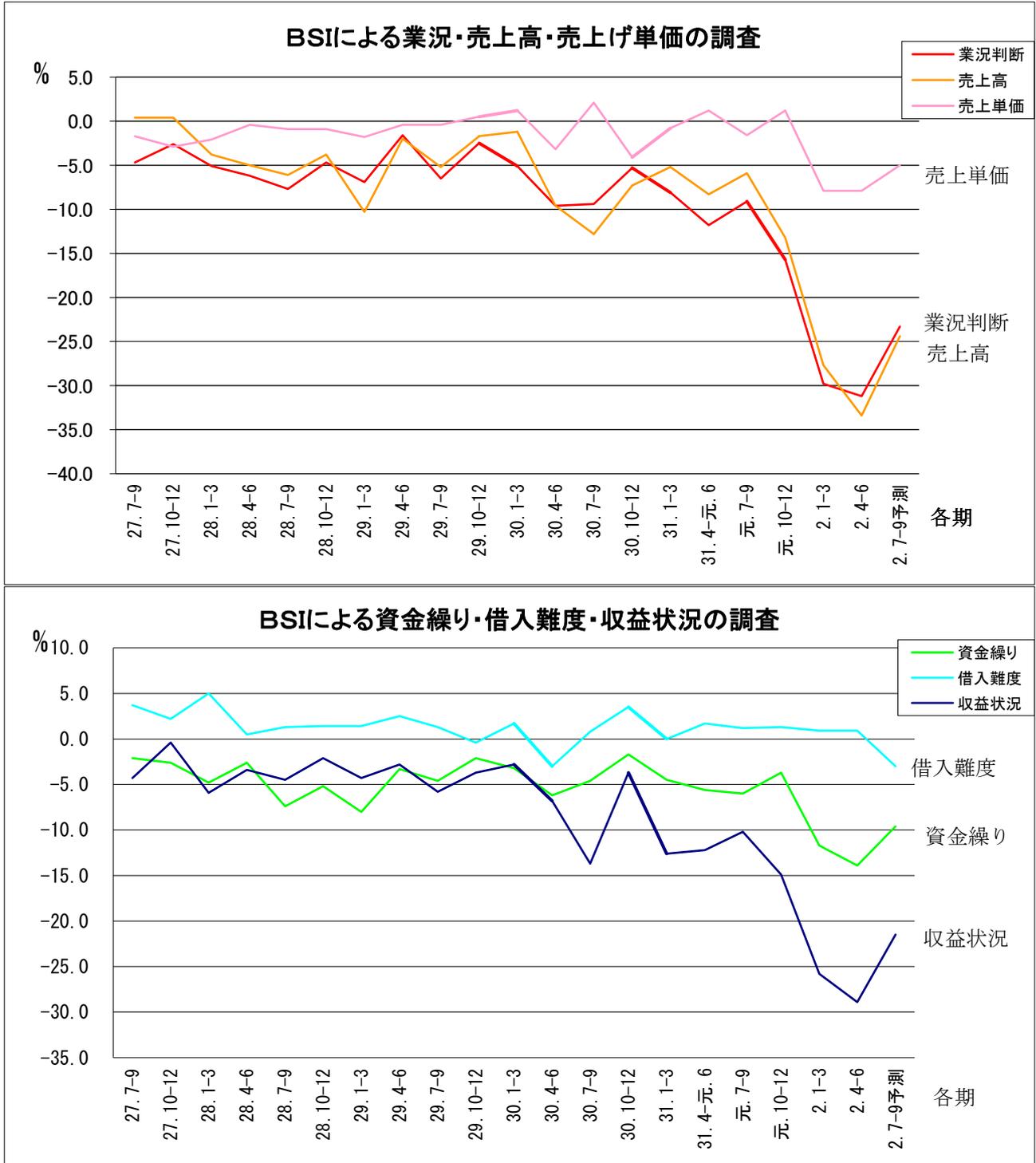


今期の業況判断は下げ止まりの傾向もみられ、  
来期は1年振りの上昇予測。

中小企業景況調査令和2年4-6月期(令和2年7-9月期予測)

—鳥取県下4商工会議所の調査より—



\*BSI=(上昇・増加-減少・下降)×1/2 (但し、「上昇・増加」+「横ばい」+「減少・下降」=100)  
経営者の業況に対するマインドを反映するもの。(0%は「上昇・増加」と「減少・下降」が同数。「+」は上昇・増加、「-」は減少・下降)

## ■業況(グラフ参照)は・・・

「令和2年4-6月期」は、「売上高」「収益状況」「業況判断」「資金繰り」では下降しましたが、「売上単価」「借入難度」は前期と同ポイントを維持しております。

来期は「借入難度」以外は上昇しており、引き続き厳しい状況が継続しているものの、景気の下げ止まりと持ち直しの兆しが予測されます。

## ■直面している経営上の問題点

- 1位:売上・受注の減少(23.70%)
- 2位:消費・需要の停滞(19.36%)
- 3位:競争激化(9.54%)
- 4位:経費の増加(8.67%)
- 5位:人手不足(7.23%)
- 5位:利益率低下(7.23%)

## ■各社からのその他の問題点

- ・新型コロナウイルスの流行により、足許の景気が大きく下振れする予想の中、当社も民間建設投資などの発注が延期となるなど、先行き不透明な経営状況を危惧している。(建設業)
- ・景気対策をしっかりとってほしい(建設業)
- ・新型コロナウイルスの影響により、受注制約、宿泊施設の確保ができず、工事が停滞したり中止になったりしました。向こう3ヶ月も上向きにはならないと思います。(建設業)
- ・ゼネコンを始めとした大手企業の参入増加に伴い、県外業者の作業員、外国人労働者の県内流入増加による、新型コロナウイルス感染症へのリスクが大きくなっている。今後、現場がストップしたり中断する可能性が高くなることが予想される。(建設業)
- ・今の状況では、どうしようもないと感じます。(卸売業)
- ・建築業界では、(現在の物件は殆どコロナ発生以前の計画発注のため)現状は大きな影響はないが、コロナ後の計画発注物件では、民間物件の小さなリフォーム、住宅新築等で減少傾向にある。民間大型物件も、業績低迷企業等で投資を控える動きが出てきており、今夏から来年にかけての物件投資が心配です。(卸売業)
- ・コロナによる来客者の減少(小売業)
- ・5月は物販50%以上減でした。(小売業)
- ・①:対面営業を強み(差別化)にしてきたため、コロナ禍の下ではリモート営業やデジタル営業に後れをとり、結果売上ダウン。  
②:①を絡め、自社の売上の50%が関東圏のため、東京を起点にした営業活動ができない。(製造業)
- ・消費税の減免要望、補助金の拡充(製造業)
- ・3~5月にかけて新型コロナウイルスの影響で、一部の外国製部品が入荷せず、生産調整をしました。(製造業)
- ・売り上げ20%減(製造業)
- ・新型コロナの影響で宿泊・宴会の予約が低迷。レストランも感染者の発生や状況によってキャンセルが多数発生。出口が見えない。(サービス業)
- ・新型コロナウイルスにより、4/中旬~7/3は休業した。まだ先が見通せない状況にある。構造の転換が要と思う。(サービス業)
- ・4/14~6月末までは休館となった。予定通り7/4から再開したが、予約は前年の6割、売上は前年の5.5割にとどまっている。今後の感染状況によって良くも悪くもなってしまう状況で在庫管理や原価管理に苦慮している。(サービス業)